

1. 科目名 (単位数)	保育実習指導Ⅱ (2 単位)	3. 科目番号	SSOT4482 SCOT4482 SJNP4252
2. 授業担当教員	関 容子		
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係	「保育実習指導Ⅰ」及び「保育実習Ⅰ」、「保育児童基礎演習」(保育児童学部)が履修済みであること。		
7. 講義概要	保育実習指導Ⅰで学んだ実習現場の知識及び保育実習への基本的姿勢・基礎知識を基盤として、「保育実習Ⅱ」に必要な専門知識・保育技術及び関連知識を身につけることをねらいとする。現場での実習の充実を図るため、実習の目的や内容を明確にし、言語化、文章化ができるよう事前準備を行う。具体的な取り組みとしては、保育実習Ⅰ(保育所)の総括・評価を行い、自己の新たな学習目標・課題を明確化する。また、責任実習に向けて指導計画の立案とその相互批評を行い、計画を基にした模擬保育などにより実践力を身につける。実習後には振り返りを行い、保育の担い手としての心構えを今一度明らかにする。		
8. 学習目標	「保育実習指導Ⅱ(保育所)」が終了した時点で、下記目標の達成が期待される。 1. 保育実習の意義と目的を理解し、説明できる。 2. 保育実習Ⅰや他教科の内容との関連性を理解し、説明できる。 3. 保育実習Ⅰの総括・評価を通じて保育実習Ⅱに向けた自己の新たな学習目標・課題が明確化される。 4. 実習に直結する具体的な知識・技能を体得し、保育の実際への理解を深め、実践することができる。 5. 責任実習に向けて指導計画の立案演習と模擬保育により、実習への実践的能力が高まる。 6. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育を総合的に省察する能力が身につく。		
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	アサイメント 1) 事前学習部分に示された事柄に取り組み、課題を仕上げて授業に臨む。 2) 授業内で配布するワークシートや指導案を、指定された期日までに仕上げて提出する。 レポート課題 1) 「保育実習Ⅱに向けた自己の学習目標と課題」について 2) 「あなたが目指す保育士像と、保育士に求められる専門性と役割について。またどのような保育実践をしたいと考えるか、その理由も記しなさい。」		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 『保育者になる人のための実習ガイドブック A to Z』名須川知子監修 萌文書林、2020年 『保育実習ハンドブック』関口はつ江編著 大学図書出版、2022年 【参考書】 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』 【教材】 『保育実習の手引き』東京福祉大学 保育実習Ⅰ(保育所)の実習記録(毎回必ず持参すること) ※その他、必要に応じてプリント教材を配布する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 授業に対する参加態度(出席状況、授業に臨む姿勢、個別学習・グループ学習における課題への取り組み)は意欲的であったか。 2. 提出物の期日は順守できたか、取り組みの内容は十分なものであったか。 3. テーマに沿って分かりやすい表現・明瞭かつ論理的なレポートを作成できたか。 ○評定の方法 1. 授業態度(欠席、遅刻、途中退出含む) 50% 2. 提出物(提出期限厳守)とその内容 20% 3. 期末レポート 30% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位の修得を認めない。 以上の結果を総合して評価をする。		
12. 受講生へのメッセージ	保育実習Ⅰの経験をおおして学んだこと、身に付けたことにはどんなことがあったか。また、どのような方をさらに身に付けたいと思うか。大学卒業後は、一人の保育者として子どもたちの前に立ち、専門家としてそれぞれにふさわしい保育を実践していくことが求められる。自分はどんな保育者になりたいのか、そのためにどんな視点や学びが必要かを常に意識し、学びを深めてほしい。子どもはどうしたいと思っているのか、保護者はどう願っているのか、それを保育者はどう受け止め、どのような連携のもと、保育を展開していくのか。保育方法を探るには「子ども理解」が欠かせない。こちらの一方的な計画を進めるのではなく、子どもたちの活動が、主体的で対話的で深い学びとなる援助のあり方を考え、実践する保育者を目指して成長してほしい。各回講義内容は、実習時期等により進度を調整することがある。		
13. オフィスアワー	別途通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション(授業概要と進め方、望ましい学習態度について)、学習グループの編成。 保育実習Ⅰの省察(実習記録をもとに、グループディスカッションし、実習での問題点を探り、考察をする) 福祉専門職支援室より、配属発表と実習生個人調書配付・説明。	事前学習	自己の実習記録を読み直して問題点をリフレクションシートにまとめる。各自、「保育実習指導Ⅱ」のノートを用意する。
		事後学習	保育実習Ⅰの反省から、次の実習目標と課題を明確にする。 実習生個人調書の下書きをする。

第2回	実習評価項目からの振り返り。 保育実習Ⅰの省察のグループ発表（問題提起を含む）。 各自の必要とする学習課題と内容について討議を行いグループ内でまとめる。	事前学習	第1回授業の週末までに実習生個人調書の下書きを教員まで提出する。 自身の実習記録の評価内容を振り返り、今後の実習において、特に重点を置いて取り組むことについてまとめてくる。
		事後学習	実習生個人調書の清書をする。 プリントにある、実習評価項目を踏まえ、自己の問題点について再確認し、今後の学習課題を明確にする。
第3回	福祉専門職支援室より実習生個人調書（清書）の回収。 第2回講義に引き続き、各自の学習課題と内容についてグループ学習し発表に備える。	事前学習	課題に対する具体的な取り組み方法について考えてくる。
		事後学習	明確になった学習課題に向き合い考察を深める。 年齢別の部分実習案の資料を調べ、入手する。
第4回	「保育現場における一日の流れ」を振り返る。気づきの視点をグループごとに発表し、保育現場への理解と、実習での動きについて考える。	事前学習	保育現場における一日の流れについて、子どもの視点、保護者の視点、保育者の視点から振り返る。
		事後学習	新たな気づきの視点が保育実習Ⅱでどのように生かされるかを考え、自身の動きと実習記録内容をイメージする。
第5回	保育現場での子どもの生活、発達を振り返る。 部分・責任実習への構想と考察（グループ学習）	事前学習	年齢別の子どもたちの姿を振り返り、ふさわしい主活動や「朝の会」「帰りの会」について具体的内容を考え、資料を入手する。
		事後学習	グループ発表に向け、指導案の作成をすすめる。
第6回	部分・責任実習への構想と考察 責任実習のための指導案作成練習を行う。（グループ学習）責任実習指導案発表と考察	事前学習	保育実習Ⅰの記録を振り返り、保育実習Ⅱで取り組む具体的内容を明確にする。
		事後学習	グループ内で協議し、お互いの気付きを指導案に生かす。
第7回	グループごと、責任実習指導案発表と考察。 福祉専門職支援室より、実習記録簿及び必要書類の配布。	事前学習	指導案の保育の流れ、環境構成、準備する内容について確認する。
		事後学習	グループ発表における質疑応答、指摘などから、発表内容を振り返り、実習に向けて改善する。 新たに配られた実習記録簿について、事前に記入すべき箇所を確認し、記入する。
第8回	責任実習指導案発表（グループ）と考察。 福祉専門職支援室より、検査キット配布及び巡回指導教員発表。	事前学習	実習に関わる必要書類の記入と諸手続き、提出日を確認する。 指導案の保育の流れ、環境構成、準備する内容について確認する。指導案を週末前に教員に提出する。
		事後学習	指導案の修正をする。 実習に関わる必要書類の記入と諸手続き、提出日を確認する。
第9回	責任実習模擬保育の実践と考察。 登園から降園までの各場面を想定し、模擬保育を行う。	事前学習	各グループ、責任実習模擬保育の準備と発表のための練習をする。分担を考えておく。
		事後学習	記録では読み取れない部分、足りない箇所、必要な動き等について、発表とグループ討議から明らかにする。
第10回	責任実習模擬保育の実践と考察。 登園から降園までの各場面を想定し、模擬保育を行う。	事前学習	各グループ、責任実習模擬保育の準備と発表のための練習をする。分担を考えておく。 どのような理由で修正が必要だったのかを説明できるようにする。
		事後学習	模擬保育をとおして明らかになった、不足部分、必要な動き等について、指導案を修正する。 どのような理由で修正が必要だったのかを説明できるようにする。
第11回	保育実習Ⅱにむけての学びを振り返る。 指導案の修正部分についての考察を深める。 実習日誌の書き方を再検討する。 実習記録の記述とは何か、グループ内で検討し合い、考察する。	事前学習	保育実習Ⅱに求められる心得、学んだ知識、実技、記録内容について振り返り実践に向けた準備をする。第2回に配布した実習評価項目のプリントを持参する。
		事後学習	保育実習Ⅱにむけ、必要な事項についてグループ内で共有し、再確認する。

第12回	保育実習Ⅱの省察。仲間との振り返り ① グループごとに話し合った内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化。	事前学習	保育実習Ⅱの自己の省察を行い、具体的にあげてみる。
		事後学習	グループ内で共有し、場面ごと、対象ごとに整理しみる。グループ発表準備。
第13回	保育実習Ⅱの省察。仲間との振り返り ② グループごとに話し合った内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化。	事前学習	前回のグループ記録に目を通し復習しておく。
		事後学習	自分たちのグループが伝えたいことを明確化し、整理する。
第14回	保育実習Ⅱの省察。仲間との振り返り ③ グループごとに話し合った内容の発表、質疑応答、考察による体験の共有化。	事前学習	他グループの発表による学びや、新たな気づきをまとめる。
		事後学習	他のグループからの学びも含め、この授業で得られた学びについて明らかにする。
第15回	保育士に求められる専門性と役割について、さらに自己の目指す保育士像について。またどんな保育実践をしたのか、なぜそのように考えるのかを考察し、授業のなかでレポートを作成する。	事前学習	1～14回の授業を通しての学びを踏まえ、保育実習全体を振りかえっておくこと。
		事後学習	保育士を目指す者としての心構えをもう一度明らかにする。